

S H O N A N

湘南

情報は
こちらへ

- 湘南総局 ☎0463(27)1400
FAX0463(23)1200
- 鎌倉支局 ☎0467(22)4821
FAX0467(22)2800
- 藤沢支局 ☎0466(27)4892
FAX0466(27)8410
- 茅ヶ崎支局 ☎0467(87)1612
FAX0467(87)1522
- 平塚支局 ☎0463(35)1866
FAX0463(35)1866

お薦め番組

ジェイコム湘南 ☎(0120)999000

「2014 湘南藤沢市民マラソン生中継」(26日午前8~11時)湘南の海岸線を駆け抜ける大会の様を生中継!

JCN鎌倉 ☎0467(44)8787

7デイズデイリー(月~金曜午後5時10分、6時ほか)鎌倉・逗子ならではの伝統行事やイベントなど地域の情報がいち早くわかる番組です。

湘南ケーブル ☎0463(22)1213

湘南チャンネル「情報カフェ!湘南館」(午後7時ほか)▼えびすまつり▼吾妻さんよさこい▼大井町産業まつり▼ベルマーレほか。

83.1MHz レディオ湘南 ☎0466(25)7000

「茅ヶ崎市広報番組・はまかぜちがさき」(月曜午前10時半~11時、水曜午後9時~9時半再放送)行政、イベント情報ほか。DJは大野和世。

82.8MHz かまくらFM ☎0467(25)7000

GOOD SHOT GOOD LIFE(木曜午後10時25~43分)ミリオン☆ちゃんねる(月曜午後9時半~58分)

78.3MHz FM湘南ナバサ ☎0463(23)7111

この人と60分(土曜午前9~10時、次週火曜午後3~4時再放送)平塚経進会の石川一郎会長。

湘南 キャンパスナビ

私は江ノ電沿線新聞社で、新聞やパンフレットの制作を手伝っています。江ノ島電鉄沿線の観光スポットや店の紹介、イベント情報を掲載する「江ノ電沿線新聞」は鎌倉・藤沢の中心部一帯のコミュニティメディアとして非常に人気の高いフリーペーパーです。

仕事をきつかけは、大学2年のインターンシップ(就業体験)でした。幼いころから母親と乗り、仕事にはゆとりがあり、読書の習慣があり、ここで学んだことの詰まった江ノ電に関する情報を第一に考え、あらゆる

の細かいところまでこだわったプロの仕事にはいつも感心させられます。社員の記者の方たちのような記事は書きませんが、ここで学んだことは私の大きな財産です。

伝え方の難しさ実感
工夫がされています。たった一文、一文字でも変えれば与える印象が一変するのです。情報提供だけではなく、卒業生やフォント、ほん

多摩大学

◆多摩大学湘南キャンパス グローバルスタディーズ学部を置く。学生数は約600人。藤沢市円行802。☎0466(82)4141。

読んでもらえる喜びを
みしながらパソコンに向かう



商売繁盛や安全祈願
湘南のえびす様として知られる平塚三嶋神社(平塚市夕陽ヶ丘、柳田直經宮司)の「新春えびすまつり」が19日、同神社境内で行われた。写真。総代らが、えびす様の約りざおに見立てた「福世(ふくざき)」を配布。参拝者はこれに神社で購入したお札や紙で作った鯛(たい)、干両箱などの縁起物を飾って自宅を持ち帰り、商売繁盛や家内安全を祈った。

トリーをまく「開運福まき神事」も行われ、景品が当たるカードの入った袋をもらうと、多くの人が手を伸ばしていた。

計画停電などに見舞われた東日本大震災の教訓を生かそうと、介護老人福祉施設「グリーンライフ湘南」(藤沢市石川)は、災害時に発電できるLPガスの貯蔵タンクと発電機を設置した。停電しても、施設内の廊下やトイレ、食堂の照明がとまり、医療器具も稼働させられる。福祉施設での導入は県内初という。(遠藤 綾乃)

藤沢の福祉施設

災害時にLPガス発電

停電後も医療器具稼働

グリーンライフ湘南の入所者は104人。平均年齢は約85歳、要介護度は平均4.1という。震災の起きた2011年3月11日以降、施設も計画停電の対象となった。「とても寒い春だったので、暖房が切れると布団だけではとても大変だった」と施設長の宮部美佐子さん。

たんの吸引が必要な入所者が10人ほどおり、充電式の1台で何とかしのいだ。夜間の介護はヘッド

県内で初導入



LPガス発電でともった蛍光灯(左上)の下、利用者と談笑する宮部施設長(右)



敷地内に設置された発電機。電線で施設につながっている

送電線や導管などの破損によりストップしてしまう電気、都市ガスと比べ、ボンベを運べれば供給を再開できるLPガスは「分散型エネルギー」としての強みを持つ。東北の被災3県でも、津波により損壊した建物を除いて電気都市ガスより早く全面復旧したという。

停電が発生すると、自動的にL

貯蔵タンクのガスで1週間ほど施設運営を賄える。厨房も使えるので、地域での炊き出しも検討しているという。高齢者の健康と命を預かる立場として、宮部さんは「導入できて、ほっとした。災害時、他施設での対応が困難になった場合には、状況によって受け入れも可能」と話している。